



PREX NOW

No. **140**
December
2004

財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

- page 1 ニュース&レポート 1
企業の財務管理を強化
ベトナムで「企業の財務管理」研修を実施
- page 2 研修員の声
西アフリカ トーゴ、ベナン、象牙海岸、
マリからの研修参加者たち
- page 3 専門家の声
PREXシニア専門家の活躍
- page 4 ニュース&レポート 2
日本の魅力満載！
京都および東京の商業・観光施設を紹介
- page 5 講師の声
PREXの研修の意義深さを実感
(株)カリエーション 代表取締役 内海政嘉氏
- page 6 PREXだよ
事務局ニュース
コラム



ニュース&レポート ①

News & Report

企業の財務管理を強化 ベトナムで「企業の財務管理」研修を実施

PREXは、海外技術者研修協会(AOTS)の補助制度を活用し、ベトナムホーチミン市およびダナン市で、民間企業および国営企業の経営者を対象に「ベトナム海外研修 ~企業の財務管理~」を実施した。メイン講師は、長友公認会計士事務所 取締役所長 長友滋尊先生にお願いした。研修参加者が、企業経営におけるファイナンスマネージメントの重要性と留意点について理解を深め、ベトナムの企業経営の健全化、安定化に寄与することを目的とした。

ベトナムに旅立つ前日の金曜日、ベトナム商工会議所(VCCI)ホーチミン支部からの連絡では、研修参加予定者は45名であった。なかなか盛況だと喜びながら、ベトナムに出発した。到着してホテルにチェックイン後、ホーチミン支部からの連絡で、参加者の登録が62名になったとの事。これではAOTSの修了証書も足りない上、会場の広さが足りないことが判明。しかしVCCI担当者は落ち着いたもので、当日は50名前後になる、との事。実際、初日を迎えると、55名で落ち着いた。研修開始直前になっても登録をしたいといってくるほどのニーズの高い研修であることを痛感した。研修が始まってみると、最初は緊張の面持ちで神妙に講義を聞いていた研修参加者も、熱がこもってきて、意見を言ったり質問を活発にしたり、熱いディスカッションや質問の時間が持てた。思った以上に参加者のレベルが高かった。



ホーチミン市での研修風景。55名の企業経営者らが熱心に聴講した。女性は3割程度。



ダナン市での開講式の様子。AOTSのベトナム連絡代表ホ工氏にご挨拶いただいた。

一方ダナン市では最終連絡では研修生が20名とのことであったが、こちらを蓋をあげてみると、45名程度の登録があったとの事。最終的な参加人数は40名に落ち着いたが、こちらでも企業財務についての関心の高さを感じさせられた。

特にダナン市は98年にAOTSの研修を実施して以来であったので、市内の変貌振りには目を見張るものがあった。6年前には車などほとんど見かけなかったが、今回は流しのタクシーを多く見かけた。しかし、ホーチミン市に比べるととてものんびりした町で、海岸も近く、とても穏やかな時間を感じることができた。

PREXでは、昨年、ホーチミン市で研修を実施しており、今回は、その際の盛況振りを聞いたダナン支部からも、研修実施の依頼を受けた。VCCIダナン支部からは、「海外から講師を招いて研修を実施するということがあまりなく、今後も是非続けて欲しい、来年は、年1回といわず2回実施して欲しい」という、うれしい要望も出ている。これから発展していく中部では、首都ハノイや商都ホーチミン市とは違い、今後も海外から講師を招いた研修の実施の要請が多く寄せられるのではと強く感じた。

国際交流部 コースリーダー 田中 綾子

AOTS「ベトナム海外研修 ~企業の財務管理~」

実施日時 10/11~12(ホーチミン市) 10/14~15(ダナン市)
研修参加者 民間企業および国営企業の経営者：ホーチミン市55名、ダナン市40名
関係機関 海外技術者研修協会(AOTS)ベトナム商工会議所ホーチミン支部、ダナン支部



西アフリカ トーゴ、ベナン、象牙海岸、マリからの研修参加者たち

[仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー]

今年で4年目を迎える「仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー」では西アフリカに位置するトーゴ、ベナン、象牙海岸、マリ6名の研修員が、日本の中小企業政策についての講義、企業訪問等を通して日本の中小企業の現状、中小企業振興の取組み状況を学んだ。セミナー終了後、トーゴ、ベナンの研修員より自国の概要、投資状況などについて、また、象牙海岸、マリ6名の研修員よりそれぞれに日本の印象、セミナーの感想を寄稿いただいたのでここに紹介したい。



トーゴ

アフイさん

投資促進・中小企業振興部

投資家には魅力的なトーゴ

トーゴは国土620km²、西をガーナ、東をベナンに隣する南北に細長い国であり、公用語はフランス語である。

1960年4月27日の独立後、順調な経済成長とともに安定した政治が長く続いた。主要産業は農業であり、カカオ、綿花が豊富にとれ、金、鉄などの鉱物にも恵まれている。リン、レンガ、大理石なども多くはトーゴから輸出されており、また、ビール醸造（原料は粟、とうもろこし等）も盛んでありアフリカ各国への輸出も行っている。

経済自由区は多種多様な小企業が集中する地域であり、投資家には大変魅力的な場所であるに違いない。金融システムは多様化しており、輸送面では海に面していることもあり非常に恵まれた環境にある。



ベナン

アブドゥさん

商工会議所 課長

ベナンの経済発展における潜在的可能性

1990年2月以降、ベナン共和国は法と複数政党に基づく民主化を進めている。

立地条件により、ベナンは経済面において優位な点がいくつかある。

西アフリカにおける海に面していない

国々への通り道であること。

西アフリカで大きな市場があるナイジェリアに近いこと。

このように地理的に強みを持つベナンは、西アフリカ諸国経済共同体や、6,000万の消費者を保有する西アフリカ経済通貨同盟などの発足により、さらに有利な経済状況となっており、今後さらに成長の見込みがある。



象牙海岸

アレクサンドルさん

象牙海岸商工会議所 部長

研修に参加して

象牙海岸は西アフリカに位置するフランス語圏で人口は1,600万人。経済レベルは西アフリカ金融同盟でのキャパシティのうち40%を占める。

母国象牙海岸より「明治」の国をイメージして日本にやってきた。日本での3週間の滞在について感想を述べると時間がいくらあっても足りないくらいだが、シンプルにいえることは日本という国は「美」にあふれ独特の文化があるということだ。

日本という国で、すばらしい経済発展の特徴～電気、テクノロジー技術～までを学ぶことができた。また中小企業発展のための政策は非常に優れたものであり、帰国後我々もそれを見習って、自国の発展の為の参考としたい。



マリ

トラオレさん

投資促進局 副局長

アフリカにおける中小企業支援に

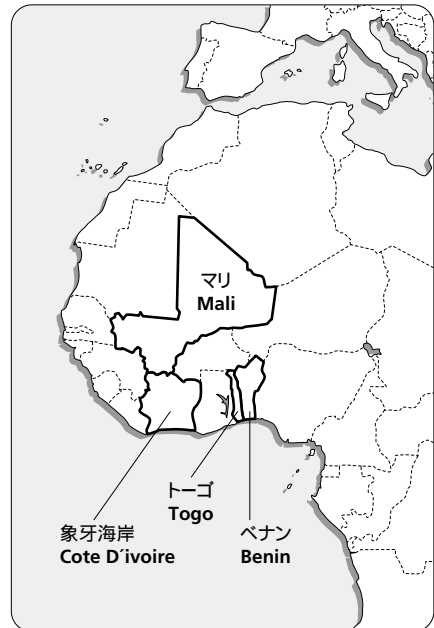
対する日本の貢献

3週間わたる研修は私の予想をはるかに上回るものであった。日本の中小企業振興の現状、国および地方レベルにおける中小企業支援機関の役割を大いに

学んだ。研修最終日には得た知識を元に自国で実行するためのアクションプランを過去の参加者が作成したものに加筆、修正する形で作成した。

PREXによる研修は、訪問・講義で構成され、対応して下さった講師の方々には能力、経験のある方々であった。

今後期待することは研修参加国でのフォローアップと評価の実施であり、これらの実施により日本での研修内容が研修参加国において更に活かされるものと確信する。（特にマリにおいては、貧困削減対策の意味での中小企業振興の重要性をマリ政府に働きかけることが必要である。）



仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー

- 実施日時 10/4～10/22
- 研修参加者 トーゴ、ベナン、象牙海岸、マリ
の中小企業振興政策を担当する省庁の
幹部行政官、民間団体幹部職員 6名
- 委託元機関 独立行政法人 国際協力機構（JICA）
大阪国際センター
- 内 容 中小企業政策

お世話になった方々、企業・団体他（訪問順・敬称略）

- 大阪市立大学大学院創造都市研究科 植田助教
- 龍谷大学経済学部 大林教授、神戸大学大学院経営学研究所 忽那助教授、枚方市役所、伸和製作所、松下電器歴史館、サントリー京都ビール工場、大田区産業振興協会、早稲田大学産学官研究推進センター、全国信用保証協会連合会、ポリテクセンター関東、国民生活金融公庫、和歌山県工業技術センター、宇治商工会議所、丸久小山園、神戸市



PREXシニア専門家の活躍

[中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー]

本セミナーでは、中央アジア・コーカサス地域の6カ国から10名の研修員が来日し、自国の産業振興策を探るために、日本におけるマーケティングの手法及び応用事例や国・自治体の産業振興施策について理解を深めた。

研修の中で、講師をお願いした柳千秀氏(テーマ：観光)と安田靖氏(テーマ：各国の軽工業育成・振興策)からの寄稿を、以下に紹介する。



研修中には、公開セミナーを開催し、自国の特産品や観光資源について最新情報の提供を行った。



(株)二条丸八にて着物を試着する研修参加者たち。



柳 千秀氏

PREXシニア専門家

中央アジア・コーカサスの軽工業振興業務を担当する行政官を対象とした「中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー」のカリキュラムの中で観光に関する講義を担当しました。

テーマは「観光資源を活かした産業振興」で、観光振興の必要性、観光振興と地場産業振興をどのように関連させるかを

ポイントに、具体的事例を紹介しながら、講義を一時間余り行いました。

アルメニア、グルジア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタンの各国研修員(行政官)が、熱意をもって真剣に私の話を聴く姿勢に感心いたしました。それぞれの、国々との交流拡大を図るうえで、観光分野が果たす役割は大きいものがあり、各国の今後の観光施策に期待できそうです。

私は、大学時代に「観光事業論」を学び、地方自治体で観光行政の仕事を担当した経験から、研修事業に少しでもお役に立てればうれしく思います。そういう意味で、退職後、PREXとの出会い、ご縁に心から感謝しております。

なお、10月7日の研修当日、京都府南部に位置しますハイタッチ・リサーチパークの中の株式会社二条丸八にお伺いして、京都の伝統産業でもある和装衣装について勉強させていただきました。各国研修員の関心も強く、中村保課長のご説明と試着を楽しんでおりました。会社の皆様にお世話になり、この誌面をお借りし、お礼申し上げます。



安田 靖氏

PREXシニア専門家

クラスに集まった10人ほどは中央アジア政府の中堅公務員だ。彼らには、日本で学び、その成果を国の政策に応用してくれという期待がかけられている。しかし、すでに3週間をこの日本で過ごしており、どうやらホーム・シックにかかっている人も多い。講義に熱中できないとしても当然である。教室がともすればざわつく。

講義をするより、彼らに発言させよう。彼らの発言に対するコメントも、講義になるのではないかと。そう思って、最初に、これまでに学んだことへの、疑問や反論はないかと発言した。帰国後、母国で応用したくなるような政策の発見はありましたか。日本の弱点や長所の発見はありましたか。

回答は、これまでの経験と同じであった。「中小企業政策に関心をもった。商社やJETROの活躍に興味をもった」などという回答にうれしさを感じたが、さらに、「どのような政策、どのような活動に関心をもちましたか」と問いただすと、言葉がにごる。抽象的な回答は見事であるが、具体的な点についての回答はほとんどない。

興味の糸口は発見できても、そこからの第1歩を踏み出せない人が、圧倒的である。もちろん、授業後、「さらに教えてくださいませんか、どんな本がありますか」など近づく研修生もいる。残念ながら、今回、講師冥利につきる思いをすることはなかった。

いいたいことがあった。和平の重要性である。ソ連時代のこの地域は、モスクワの圧力が見た目だけの和平をつくっていた。今は、それぞれの国民の意志で、互いに友人としての握手をすべきである。地域分業、共通対外政策や清算協定はできないか。互いの政策の勉強をし、自信のもてる政策をつくれぬか。日本からの刺激が、彼らの栄光の復活を助けることはできるだろうか。

中央アジア市場経済理解のための マーケティングセミナー

実施日時 10/4 - 10/29
研修参加者 中央アジア・コーカサス地域(アルメニア、グルジア、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン)において軽工業における産業振興に携わる行政官 10名
委託元機関 独立行政法人 国際協力機構(JICA)大阪国際センター
内 容 経済発展のための国内産業の振興ノウハウの習得

お世話になった方々、企業・団体他(訪問順・敬称略)

大阪市立大学経済学部 田畑理一教授、山脇ビジネスコンサルティング 山脇康彦代表、姫路市、白鶴酒造、近畿経済産業局中小企業課 須山季子課長補佐、二条丸八、大阪繊維リソースセンター、深喜毛織、新潟経営大学 イワン・ツェリリッシュェフ教授、東洋トランス、日本航空、ユナイテッド航空貨物、ナビックストランスポート、国際コンテナターミナル、横浜港国際流通センター、大田区産業振興協会、東京都立農芸高等学校、日本貿易振興機構、在日キルギス共和国大使館 バケットベク・アサノフ氏、篠山市、JA丹波ささやま、クリエイトささやま、ダン、一橋大学経済学研究科 清水学教授、大阪企業家ミュージアム、松下電器産業



日本の魅力満載！京都および東京の商業・観光施設を紹介

[ウズベキスタン日本センター ビジネスコース講師・職員研修]

PREXは、ウズベキスタン日本人材開発センター(通称、日本センター)ビジネスコースの講師2名および職員1名の計3名を対象に、研修を実施した。研修の目的は、ビジネスコースの運営に必要な知識やノウハウを、日本企業等への訪問を通じて習得することである。また、日本滞在を通じて日本文化を肌で感じ取り、日本での人的ネットワークを作ることも、大きな目的である。

今回の研修は2週間という非常に短い期間であったため、平日は企業等への視察がぎっしり詰まっていた。

その中で、少しでも多く日本のことを理解し、ウズベキスタンに役立つことを見つけてもらおうと、休日を活用した視察を行った。

現在PREXでは、研修事業を通じて、関西に対する理解を促進するためのプログラム(関西プログラム)を推進・実行している。

本研修では、研修員にとっては休む暇がなく大変だったかもしれないが、休日のうち一日を使い、京都を紹介する日を設定した。

その際、京都の観光施設のみではなく、ウズベキスタンに直接参考となるような紹介ができないかと考え、二条城の周りに散在する、町屋を利用したショップやレストランなどを視察した。

ご存知の方も多いかと思うが、京都の町屋は、間口が非常に狭く奥に長い。これは、

当時の税制で、間口によって税額が決められたことから、少しでも負担を軽くするための、京都の人たちの知恵だと言われている。

この古い町屋を保存し、活用する取り組みが、現在京都で行なわれているところに着目した。

ウズベキスタンにも、昔の建造物をレストランに再利用している例などもあることを事前に聞いていたため、参考になるのではないかと考えた。

研修員に聞いてみると、ウズベキスタンでは、古い家屋などを保存するという意識はあまりなく、残っているものは少ない、とのことだった。ただ建造物を商業施設として再利用するという考え方は、参考になるとのことだった。

というのは、古い家屋の有効活用=観光客誘致策と捉えていたようで、日本の町屋を再利用したショップやレストランは、特に地元の若者に人気がある、ということをお話

すと、驚いたようだった。

京都は、碁盤状に道が作られていて、それぞれの道に名前があるが、道の各所に、その名前の由来と、現在地を記載した標識が、日本語・英語・中国語・韓国語で書かれている。これは一つの観光客への対応であることを伝えると、このような観光客誘致のための配慮にも、感心した様子だった。

東京でも、同じく休日一日を使い、お台場を中心に視察した。

日本の最先端技術の紹介ということで、お台場にある東京ジョイポリスを訪れた。ジェットコースターやフリーフォールなど、遊園地でお馴染みの乗り物を、CG画面と音響によって体感できるようになっており、自国には大きい遊園地がないということで、楽しんだ様子だった。

お台場からは船で移動した。

ウズベキスタンは double locked country(国境を2つ越えないと海に出られない)と言われ、海を見る機会が少ないため、船に乗るのは非常に興味深かったようだ。

せっかくの来日の機会を生きかし、今後も関西を中心とした日本的なものを、新旧問わず紹介することにより、少しでも深く日本および関西の魅力を理解してもらえたらと思う。

国際交流部 コースプランナー 高山 真由子

ウズベキスタン日本センター ビジネスコース講師・職員研修

実施日時 10/8～10/21
 研修参加者 ウズベキスタン日本センター
 ビジネスコース講師2名、職員1名
 委託元機関 独立行政法人 国際協力機構(JICA)
 兵庫国際センター
 内 容 ビジネススクールの運営や
 カリキュラム作成に関する視察、
 企業・産業振興関連機関の視察

お世話になった方々、企業・団体他(訪問順・敬称略)
 大谷ナショナル電機、ケーエルシー、サントリー、尼崎信用金庫、ミツクラ、国際電気通信基礎技術研究所、NTTコミュニケーション科学基礎研究所、和光化学工業、カワノ、グロービス、松下電器産業 パナソニックセンター・人材開発カンパニー、エクセルインターナショナル、同志社大学大学院ビジネス研究科



江戸東京博物館にて、籠に乗る研修参加者のグルノラさん。歩き疲れて一休み。



お台場からの船上で、全身に風を受けてクルージングを楽しむ研修参加者(左から、クドゥラットさん、アジムさん、グルノラさん)



東京ジョイポリスで、コインゲームにチャレンジするグルノラさん(開場と同時に入場したため、サービス券ももらった)。



京都の町屋の中心にて。この町屋には、お洒落なカフェや靴屋さん、京都の伝統的な織物や小物をお手頃価格で揃えたショップ、また伝統工芸の籠などを実演作成しているアトリエなどがあつた。



PREXの研修の意義深さを実感

中央アジアでの「同窓会フォローアップ事業」講師を終えて

PREXでは、9月14日から21日にかけて中央アジアのウズベキスタンとキルギスを訪問し、2カ国では初の同窓会フォローアップ事業の実施と、併せて現地の研修ニーズを把握するためのニーズ調査を行った。

同窓会セミナーおよび公開セミナーの講師(株)クリエイションの内海代表取締役は、今回の現地訪問について振り返っていただいた。



内海 政嘉氏

(株)クリエイション
代表取締役

ウズベキスタン、キルギスから日本でのPREX研修に参加された研修員のフォローアップと公開セミナー開催を目的に両国を訪問した。

キルギスは2度目の訪問で、天山山脈を背景に、緑多い美しいビシュケクの街並みに大変懐かしい思いがし、友人との再会にも心を弾ませた。

フォローアップでの主な意見交換内容は以下の通りである。

- 1) 売ることよりも、買ってもらうことが大切である < 家具製造 >
- 2) 顧客から顧客紹介をしてもらえるようになることが大切である < 部品加工 >
- 3) 自社商品のプロモーションが重要である < 製造業 >
- 4) 国内市場が小さければ、自力で貿易する(自社の商品は自社で売る) < 家具 >
- 5) 経営トップになれる人は、マーケティングに詳しい人である
- 6) 愛知万博(2005年3月開催)への出展検討 < 絨毯製造 >
- 7) 自社社員に消費者満足の考えを教育し実践している < スーパー >

製造業の場合、自社商品を売るための努力に欠けたり、百貨店の場合、代表的なお店でさえ無愛想な接客対応が当たり前の中で、PREXの研修参加者のコメントには、顧客や市場を中心とした事業運営を目指されていることに感心させられ、



キルギス日本センターでの内海講師による公開セミナーの様子。テーマは「日本の中小企業事例紹介とキルギス企業の展望」。



ウズベキスタン同窓生グザールさん所属企業訪問。家や庭に飾る鉄製装飾品を製造しており、写真はデザイナーがコンピューターで図案を作成しているところ。

PREX研修の意義深さを感じた。

公開セミナーにおいては、両国あわせて80名の方々が参加され、日本の中小企業の成功事例、両国企業の展望といったテーマで講演を行った。については筆者により、日本の中小製造業が勝ち残りを賭け、親企業に頼らず、自社商品の開発を行い、自力で市場を切り開こうと挑戦している事例(筆者が経営コンサルタントとして企業と一緒に取り組んでいる内容)をご紹介した。

市場経済の中で国に頼らず、自力で生き抜こうとしている両国企業にとって、参考にさせていただける点は少なからずあるとの思いからである。

についてはJICA、JETROの現地滞在の邦人を招いて対日ビジネス現状、対



天山山脈。キルギスの魅力は広大な自然とその美しさ。



“中央アジアの真珠”といわれるインククル湖。夏には大勢の観光客でにぎわう。PREX職員と内海先生。



キルギス同窓生バキツさん所属の縫製企業「イルピルス」を訪問。一番の売れ筋は子供服だが、WTO加盟後中国からの安い製品の流入により競争が激しくなっている。

日ビジネスの可能性について話をしていた。大変熱心に聴講され、講演終了後も多くの質問や活発な意見交換もでき、有意義であった。

今後、企業が市場経済に対応していくには、経営といった観点からは、経営者自らが意識改革の必要性を感じるのが肝心である。その手段として、PREX同窓会メンバーが中心となり、各種経営者団体を通じて経営者同士の交流が図られること、加えて、筆者の体験談の紹介で一人でも多くの経営者が触発されることを期待したい。

最後になるが、ソ連時代は外国人の立ち入り禁止、まさに天山山脈の山ひだ深くに隠された幻の湖、“中央アジアの真珠”といわれる「インククル湖」を訪ねられたことがすばらしい思い出になった。

事務局
ニュース

コナレAU委員長「仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー」研修参加者と懇談

「仏語圏アフリカ中小企業政策セミナー」の研修参加者らは、10月16日、アルファ・ウマル・コナレ・アフリカ連合(AU)委員長が龍谷大学で「アフリカ連合(AU)と日本 市民社会への期待」と題して行った講演を受講し、その後、懇談と意見交換を行った。

この懇談は、本研修のコースリーダー・龍谷大学経済学部の大森教授の招待を受け実現したもので、アフリカの展望についての力強い講演は研修員にとって心強いものであった。なお、コナレ委員長は、JICAのシンポジウムで来日中であった。

大阪経済記者クラブとの懇談会を開催

11月4日12:00～13:30、pia NPO 3階 会議室において、PREX井上会長(ダイキン工業(株)顧問)と大阪経済記者クラブ記者との懇談会を開催。8社8名の記者が参加した。懇談会では、12月開催の「PREXシンポジウム」の案内などを行った。

インドネシア一般公開セミナーを開催

11月5日13:30～16:00、pia NPO 6階 会議室において、JICA主催の受入研修員をパネリストとしたセミナーを開催した。インドネシアの

経済・貿易状況、北スマトラの経済環境・輸出品品についてのセミナーで、企業関係者や、インドネシアに興味をお持ちの24名に参加いただいた。会場では、研修員と聴講者の間で情報交換や交流が行われた。

自治体との懇談会を開催

11月12日15:00～17:30、PREX 会議室において、PREXに出捐いただいている自治体(大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、京都府、京都市)との懇談会を開催。5自治体から参加いただいた。懇談会では、PREXの活動状況の報告、各自治体の国際交流活動の現況報告、今後の協力の方向等意見交換をおこなった。

12月実施の研修
ベトナム日本センター講師受入研修

期間 11/25～12/17

参加者 ベトナム日本センター講師候補者 4名

内容 日本の企業文化、経営戦略、貿易促進、中小企業振興施策

C O L U M N

徒然なるままに ～PREXでの1年間を通じて～

国際交流部 主事 谷川 智章

PREXへ来て、いつのまにか1年が経過してしまいました。徒歩通勤圏内で喜んでいたのもつかの間、いまや電車で揺られ、田園風景に心を和ませながらの長距離通勤組に仲間入りし、転勤当時、家内のお腹の中にいた子供が、つかまり立ちできるようになる等、まさに「光陰矢の如し」という名文句をつくづく実感させられます。

さて、この1年間を振り返ってみると、「人との出会い」というキーワードに尽きると思います。研修員との出会い、様々な企業の方々・大学の先生方等、実に様々な出会いを経験することが出来ました。英語が苦手なため、「外国人」と判断するや否や、極力近づかないように距離を保ち、大学の先生と聞くだけで小難しい話をされる、と避けてきた私にとって、この逃げようの無い拷問にどうなることかと恐れおののいたはずなのですが、着任早々の研修で、この苦手意識が「食わず嫌い」だったことに気付かされ、カルチャーショックを受けました。お互いに理解しあおうと必死にコミュニケーションしてくれる研修員達、講義時間中の鬼気迫る顔が休憩時間になると温和な顔になりジョークを飛ばす大学教授・・・、様々な人たちの新しい一面を発見することができたのは自分にとって大きな成果だったと思います。

また、各訪問先・講師の方々研修員たちが喜ぶよう、様々な工夫を凝らして対応してくださっていることには、驚きとともに、感謝の気持ち・申し訳ないような気持ちで一杯です。これからの私にとって、ご協力いただいた方々に、甘えるばかりでなく、どのように恩返ししていくのか、これを考えていくことが最大の課題になってくると考えています。



研修参加者とともに。後列右端が筆者、谷川。

**PREXの
研修実績**

 2004年
10月末現在

PREXは、1990年4月
設立以降、開発途上国の
人材育成事業と、
その活動を通しての
国際的人材交流促進に
努めています。

● 研修累計(1990～)

● 241コース

● 受講者累計(1990～)

● 102カ国・地域 7,913名

● 【受入(訪日)研修 2,516名 /

● 海外研修 5,397名】

● 2003年度

● 30コース 465名

● 【受入研修 25件 / 海外研修 3件 / 同窓会フォローアップ事業 2件】

● 2004年度(予定)

● 36コース 933名

● 【受入研修 29件 / 海外研修 5件 / 同窓会フォローアップ事業 2件】

編集・発行

 財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事 三田 昌孝

 〒552-0021 大阪市港区築港2丁目8-24
pia NPO 5階 502号室

 TEL 06-4395-2650
FAX 06-4395-2640

 ホームページ: <http://www.prex-hrd.or.jp>
電子メールアドレス: prex@prex-hrd.or.jp